

道徳科 学習指導案

令和2年10月 第2学年 指導者 天田 智之

1 主題名 相手の立場で 内容項目B－(9) 相互理解、寛容

2 教材名 「なみだ」 (出典：新しい道徳2 東京書籍) 中学校第2学年・2学期

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

中学生の時期は、学年が上がるにつれて、ものの見方や考え方が確立してくる。しかし、自我意識も強くなるため、自分の考えや立場に固執して、他者の意見に耳を傾けたり、相手の立場を考えたりしようとせず、自己中心的なものの見方や考え方をする傾向にある。

人は誰しも、苦しいときや辛いときには自分のことだけを考えてしまう。独りよがりの考えが強いと周囲とのトラブルに発展してしまうこともある。人間は大抵の物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、人にはそれぞれ自分のものの見方や考え方があり個性がある、ということに気付くことによって、自分とは異なる立場や考え方を尊重することができる。いろいろな立場や考え方を理解する寛容の心をもつ心情を育てたい。

(2) 生徒の実態について

この時期には、学級全体で話し合う場面で発言する生徒に限られ、他者の意見に安易に同調する姿が見られる。自分の考えや意見をもってはいるが、自分と他者の考えや意見の違いが明らかになることを恐れ、自分から相手に伝えることができない実態もある。また、周囲との関わりの中で、自分と相手の考えや意見に差異があることを理解しつつも、考え方の違いから生徒同士の関係に摩擦が生じることもある。このような時期に、互いの個性や立場には違いがあって当然であり、自分の考えや意見だけでは狭く、広い視野に立っているいろいろなものの見方や考え方があるということを理解する姿勢を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、学校でふとしたことから事故に巻き込まれた主人公が、こらえきれないほどの痛みややり場のない怒りゆえ、謝罪に来た加害者(S君)とその母親の涙を疑ってしまう。しかし、加害者親子が帰宅すると、主人公は冷静さを取り戻し、自己の痛みだけを思っていたときの自分の考えを反省するという物語である。そして、加害者親子を思いやり、けがに負けないよう自分を奮い立たせて、翌日は登校するという内容である。

生徒は、けがをした主人公の痛みと怒りに共感できるだろう。しかし、故意ではない事故であること、加害者親子が謝罪に訪れ涙を流して心から心配してくれた場面から、加害者親子の謝罪を素直に受け入れられるかを考えさせることによって自分と異なる他者の立場や考え方を尊重する態度を育てたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

- ・友達に言い過ぎたり、傷付けたりした生徒の経験を全体で共有し、問題意識をもたせる。

○教材を通して、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・もし自分が主人公の立場だったら、S君や彼のお母さんを素直に受け入れられるのか受け入れられないのか(自我関与)を問う。
- ・カラーコップを用いて立場を明確にすることで、生徒同士の話し合いが活発になるようにする。
- ・S君やS君のお母さんを素直に受け入れられるのか受け入れられないのかを話し合うことで、相互理解、寛容について多面的・多角的に考えさせる。
- ・登校してS君にどう接するか、声をかけるのかかけないのかを話し合うことで、相互理解、寛容について多面的・多角的に考えさせる。

- ・生徒同士が話し合う場面において、生徒が多面的・多角的に考えられるように、教師が揺さぶりの発問をする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・発表された生徒の意見に対し、教師から「でも」「どうして」「本当に」「できるかな」等の道徳的価値の理解を深められるような揺さぶりの発問をする。
- ・これまでの話し合いを振り返らせることによって、めあてに対して一人一人が納得できる答えを導き出せるようにさせる。
- ・本時の学習を振り返り、今までの自分と比較し、これからの自己の生き方や人間としての生き方について考えさせる。

5 本時の展開

(1) ねらい

相手の立場を理解して相手を思いやる言動について話し合い、広い心をもって接しようとする心情を育てる。

(2) 準備

教師：教科書 ワークシート カラーコップ 心情円 発問掲示物 場面絵

(3) 展開 (○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点 ◎研究上の手立て
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ○友達に言い過ぎたり、傷付けたりしてしまったことはないか。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・感情的になって言い過ぎてしまったことがある。 ・けんかの時に何も考えずに傷付けるようなことを言ってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で扱う道徳的価値について問題意識をもたせる。価値への方向付けができるようにする。
めあて：広い心をもつとは、どういうことだろう。			
2 教科書の教材文の範読を聞く。	7分		<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値に迫るために、教材を範読する前に主人公の気持ちの変化に着目するよう伝えておく。
3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○もし自分が主人公の立場だったら、謝りに来たS君や彼のお母さんのことを素直に受け入れられるか、受け入れられないか。その理由は。 【交流の流れ】 ・自分で考える	12分	<黄：受け入れられる> <ul style="list-style-type: none"> ・わざとやったわけではない。 ・責任を感じてそうだった。 <緑：どちらとも言えない> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方ないことだけど、せめて一言謝ってほしい。 ・自己責任だから。 <青：受け入れられない>	<ul style="list-style-type: none"> ・「受け入れられる」「どちらとも言えない」「受け入れられない」等を心情円で表し、気持ちの迷いを表現できるようにする。 ・小グループで話し合わせ多様な考えに触れることができるようにする。 ◎生徒同士の話し合い (1) カラーコップで三つの立場を明ら

<p>↓ カラーコップで意思表示 ↓ 近くの席の人と交流する</p> <p>◎もし自分が主人公の立場だったら、大けがをした翌日、けがをさせた相手にどう接するか。</p> <p>【交流の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える ↓ カラーコップで意思表示 ↓ 全体で交流する <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p> <p>○広い心をもつとは、どういうことだろう。</p>	<p>15分</p> <p>6分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・骨をけずるけがをした。 ・激しい痛みだった。 ・S君は何も言ってこない。 ・取り返しのつかないことをした。 <p><黄：声をかける></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昨日、来てくれてありがとう」と伝える。 ・「気にしなくて大丈夫だから」と言う。 <p><緑：どちらでもない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もしS君が声をかけてきたら話す。 ・S君が謝ってくれるのを待つ。 <p><青：声をかけない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・S君とは自分から関わらないようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分中心で物事を考えないようにする。 ・相手がどういう気持ちになるかを考える。 	<p>かにする。</p> <p>(2)生徒同士が気になる意見を取り上げて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「声をかける」「どちらでもない」「声をかけない」等を心情円で表し気持ちの迷いを表現できるようにする。 <p>◎生徒同士の話し合い</p> <p>(1)カラーコップで三つの立場を明らかにする。</p> <p>(2)生徒同士が気になる意見を取り上げて話し合う。</p> <p>◎教師からの揺さぶりの発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの中で、生徒が多面的・多角的に考えられるように、教師が揺さぶりの発問をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの話し合いを振り返らせて生徒の中でめあてに対して一人一人が納得できる答えを導き出させる。(振り返り) <p>◎教師からの揺さぶりの発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表された生徒の意見に対して、「でも」「どうして」「本当に」「できるかな」等の道徳的価値の理解を深める揺さぶりの発問をする。
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○これからどのように生活していけば、広い心をもって接することができるだろうか。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手とよく話をし、相手の気持ちを理解することが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分やこれからの自分について考えるよう促し、自己の向上に努める態度を高められるようにする。

(4) 評価の視点

- 登校してS君にどう接するかを考える場面で、広い心をもって接することについて多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 本時の振り返りをする場面で、広い心をもつということについて、自分自身の普段の生活との関わりの中で考えを深めているか。

(5) 板書計画

第十回 道徳

めあて 広い心をもつとは、どういうことだろう。

『なみだ』

もし自分が主人公の立場だったら、謝りに来たS君や彼のお母さんのことを素直に受け入れられるか、受け入れられないか。その理由は。

受け入れられる

- ・わざとやったわけではない
- ・責任感じてそうだったから
- ・仕方ないことだけど
- ・せめて一言謝ってほしい
- ・自己責任だから
- ・骨を削るケガをした
- ・激しい痛みだった
- ・S君は何も言っていない
- ・取り返しのつかないことをした

どちらとも言えない

受け入れられない

もし自分が主人公の立場だったら、

けがをした翌日、登校してS君に対してどう接するか。

声をかける

- ・「昨日、来てくれてありがとう」と伝える
- ・「気にしなくて大丈夫だよ」と言う
- ・もしS君が声をかけてきたら話す
- ・S君が謝ってくれるのを待つ

どちらでもない

声をかけない

- ・S君とは自分から関わらないようにする
- 広い心をもつとは、どういうことだろう。
- ・自分中心で物事を考えないようにする
 - ・相手がどういう気持ちになるかを考える